

第6回日本のスクエアダンスの未来を語る会に参加して

東村山スクエアホッパーズ：東京都
井上久史



スクエアダンスを始めてまだ5年足らずの私が、このような会に参加するのは失礼にあたるのではと思いつつ、足手まといを承知で申し込みさせていただきました。

と言うのは、私ども、東村山スクエアホッパーズは、現在、大変厳しい状況にあります。当クラブは、コロナの影響による会員減少はもとより、在籍されているコーラー2名が、両名共健康上の理由よりお休みされており、4月から例会を再開したものの、テープダンスのみの運営となっています。

テープダンスだけでは、例会での会員の満足度が低下するのは目に見えていましたので、各テープの書き起こしを行い、また、各テープの任意の場所をマークできる再生ソフトを利用して、テープ途中で一旦停止して、口頭でウォークスルーを行ったり、再生速度を調整して踊りやすくしています。さらには、例会のビデオ撮影を行って、役員間で課題の抽出をして、課題に沿ったテープを選択したりもしています。このような工夫はしていますが、やはり生のコールでの例会のクオリティーには到底及ぶものではないのが現状です。

こんな中、前回第5回の語る会で、リモートによるコールの実例が紹介されているのを知り、これ以外にもヒントや、情報を求めて参加を決めました。語る会の中で、自己紹介のパートがありましたので、当クラブの現状をお話ししましたところ、参加の皆様のご厚情により、大変有益なお話を多数頂戴いたしました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。そして、私にとって、何より嬉しかったのは、日本のスクエアダンス界の中核を担う方々と直にお話しする機会をいただいたことです。問題意識を高く持たれている方々と接すると、自分自身の視野が飛躍的に広がることを実感いたしました。ありがとうございました。次回の参加が許されるならば、懇親会は是非リアルな会がいいかなと。

最後に、無謀な試みとは思いながら、当クラブでは、初心者講習会を開始しました。第6回まではTAIKENプログラムの教材をベースに、台本を作成し、会員の中よりインストラクターを選任して行っています。現在2名のビギナーさんが参加していますが、今のところ順調に進んでいます。第7回以降は、外部のコーラーに依頼することになっています。